



「第34回 国公立大学情報システム研究会総会」

(2026年3月12日開催)
総会議事・開催後アンケート結果 (サマリ)

2026年3月
IS研事務局

第33回 国公立大学情報システム研究会総会プログラム

内 容	(発表者名敬称略)
開会挨拶	IS研 会長 横浜国立大学 国際戦略推進機構 学長特任補佐 徐 浩源
議 事	IS研 事務局
【論文①】「小規模個別導入が可能なIEEE 802.1X対応自律型無線LANシステムの構築」	鹿児島大学 情報基盤統括センター 専門職員 相羽俊生
【北陸ブロックからの活動報告】「北陸ブロック 活動報告」	北陸先端科学技術大学院大学 准教授 本郷研太
【東海ブロックからの活動報告】「東海地区における活動について」	三重大学 情報基盤センター 助教 堀川 慎一
【論文②】「ベストエフォート型光回線の実効速度観測とその評価」	愛知教育大学 ICT教育基盤センター 教授 安本 太一
【近畿ブロックからの活動報告】「近畿ブロック活動報告」	大阪教育大学 みらいICT先導センター センター長・教授 三島 和宏
【九州ブロックからの活動報告】「九州地区における活動について」	鹿屋体育大学 スポーツ情報センター センター長・教授 和田 智仁
閉会挨拶	IS研議長 山形大学 情報ネットワークセンター 教授 田島 靖久

※ 2025年度の北海道ブロックおよび東北・関東ブロックの活動（会議）は諸事情により中止となりました。

◆日時：2026年3月12日（木） 14:00~16:30

◆場所：Fujitsu Uvance Kawasaki Tower M201大会議室

◆参加者数：16名（大学関係者のみ）※その他（富士通Japan株式会社）：19名

◆参加大学

愛知教育大学

大分大学

大阪教育大学

鹿児島大学(2)

金沢大学

鹿屋体育大学

北見工業大学

九州大学

東京農工大学

兵庫県立大学

北陸先端科学技術大学院大学

長崎大学

三重大学

宮崎大学

横浜国立大学

議事

1. 議事において、下記議案が参加された会員より了承を得て可決された。

【ご報告】 2024年度 決算報告

－会計監査：堀川先生より監査実施済

【1号議案】 2025年度 決算報告(仮)

【2号議案】 2026年度 予算(案)

2. 発表について

論文（2件）、各ブロックからの事例発表（4件）

開催後アンケート結果

1 アンケート概要

2 回答結果

アンケート概要

目的

- ①参加のきっかけ、満足度などを収集し、総会の改善を図る
- ②参加大学の状況・重点テーマ等を収集し、IS研の今後の活動の活性化を図る

実施期間

2026年3月12日（木）～ 2026年3月19日（木）

対象者

本総会参加申し込み者
(IS研会員・IS研会員大学関係者)

方法

記名方式による調査、メダリアアンケート基盤のアンケート機能

アンケート回答状況

◆ 回答数／対象者数：10／16（大学関係者のみ）

◆ 回答率：62.5%

◆ 回答された大学・学校名

愛知教育大学
東京農工大学
宮崎大学

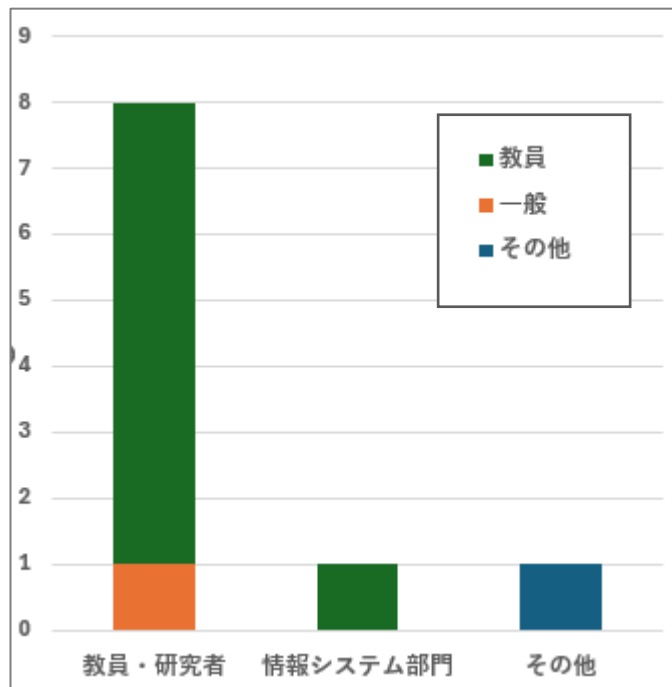
大分大学
長崎大学
三重大学

鹿屋体育大学
北陸先端科学技術大学院大学
横浜国立大学

鹿児島大学

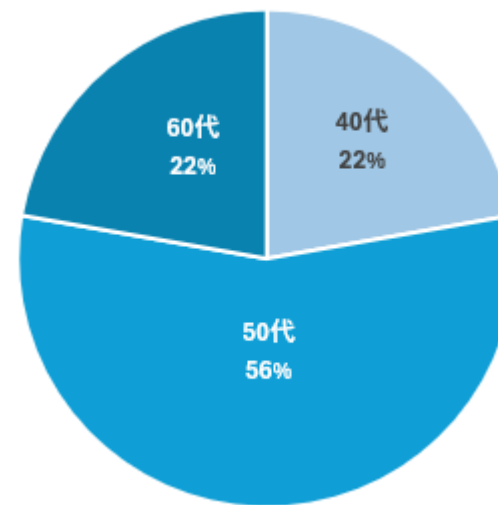
アンケート回答者属性

■ 担当業務と役職



■ その他
国際戦略推進機構) 学長特任補佐

■ 年齢層



アンケート設問

『各発表からの成果・今後の期待等』に関する設問1～5

1. 有益または参考になった発表を教えてください。
2. 本日の総会の発表で得られた成果(疑問や課題等含めて)をお書きください。
3. 貴学のDX推進に関連して、特に関心をお持ちのテーマ、あるいは解決したい具体的な課題をお聞かせください。
4. 課題解決に向けて、貴学では現在、どのような検討状況にございますか教えてください。
5. 課題解決は、貴学においてどの程度の規模の取り組みとして想定、あるいは議論されていますか。

『総会の参加目的・満足度』に関する設問6～9

6. 今回の総会に参加した目的を教えてください。
7. 本日のイベント全体の満足度を教えてください。
8. 満足度評価の理由を教えてください。
9. 総会の以下の項目について、それぞれの満足度について教えてください。
(各ブロックからの事例発表 / 論文発表 / 時間配分 / 当日の運営)

『IS研への期待・意見』に関する設問10

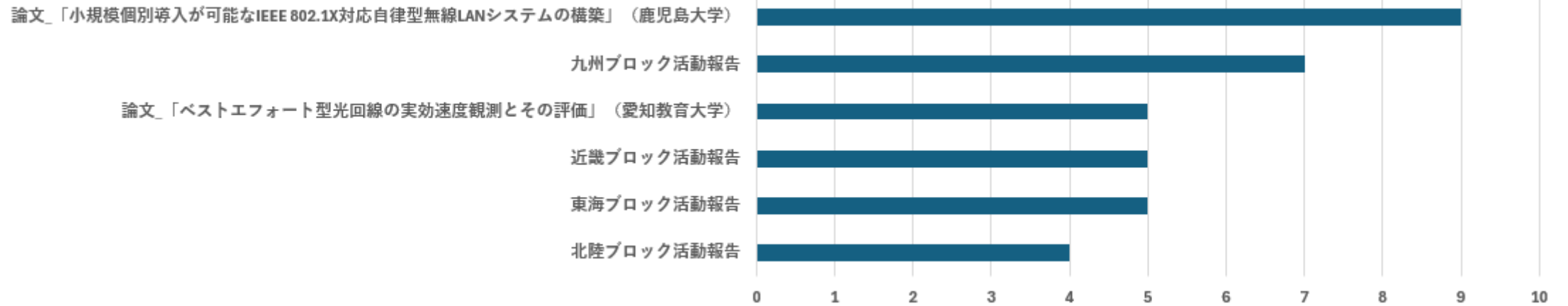
10. IS研について、「こういう風になると良い」「もう少しここをこうして欲しい」等のご意見ご要望がありましたら、自由にご記入ください。

アンケート回答 (1/8)

『各発表からの成果・今後の期待等』に関する設問1～5

設問1

有益または参考になった発表を教えてください。



アンケート回答 (2/8)

『各発表からの成果・今後の期待等』に関する設問1～5

設問2

本日の総会の発表で得られた成果(疑問や課題等含めて)をお書きください。

- 九州ブロックでは本土全大学が参加するなど活発に活動が行われている
- 用務のため現地参加できなかったのは残念ですが、他大学での調達や人材確保に関する課題、また今後の大学の在り方についても考える機会となり、大変有意義な総会だったと思います。
- 研究発表と各ブロック活動報告の交流は大変良かったと思います。いろいろなお事情もあり、今回は現地参加が少なめについて少し気になります。AI技術の急速な発展で大学と社会の情報基盤はますます重要となり、AIの発展による大学の情報基盤と教育研究支援について、今後より深い議論と交流を期待したいと思います。
- 小規模個別導入が可能なIEEE 802.1X対応自律型無線LANシステムの構築について、RADIUSサーバを冗長化すれば、もっと良い対応になると思いました。RADIUSサーバが止まってしまうと、認証ができず、無線LANが使えなくなってしまうから。

アンケート回答 (3/8)

『各発表からの成果・今後の期待等』に関する設問1～5

設問3

貴学のDX推進に関連して、特に関心をお持ちのテーマ、あるいは解決したい具体的な課題をお聞かせください。

1. AI・DXの利活用と効率化(5件)

- 教育データの分析活用、AIエージェントの利活用
- 事務系のDXについて興味があります。
- AI技術の活用による研究・教育と事務の効率化に関して、各大学の取組みと課題についてお互いの情報を交流することができればと期待しています。
- 学内からの一般ユーザからの技術的な問い合わせについて、事務方は生成AIを参考にして、回答を作成しているが、その回答の写しをみると及第点ではあるが、技術系の教員としてはしっかりこない点があり100点満点とは思わない。このあたりの差を埋めることができれば良いと考えている。
- 生成AIの利活用。

2.情報セキュリティ・ガバナンス・運用 (3件)

- 不適切な（個人契約を含む）クラウドサービスやAIの利用の抑止
- 利用者への対応、特に名誉教授など組織と無関係になった者の取扱いについて、どこまで何をすべきか
- 生成AIの活用法、セキュリティの維持

3.人材育成 (1件)

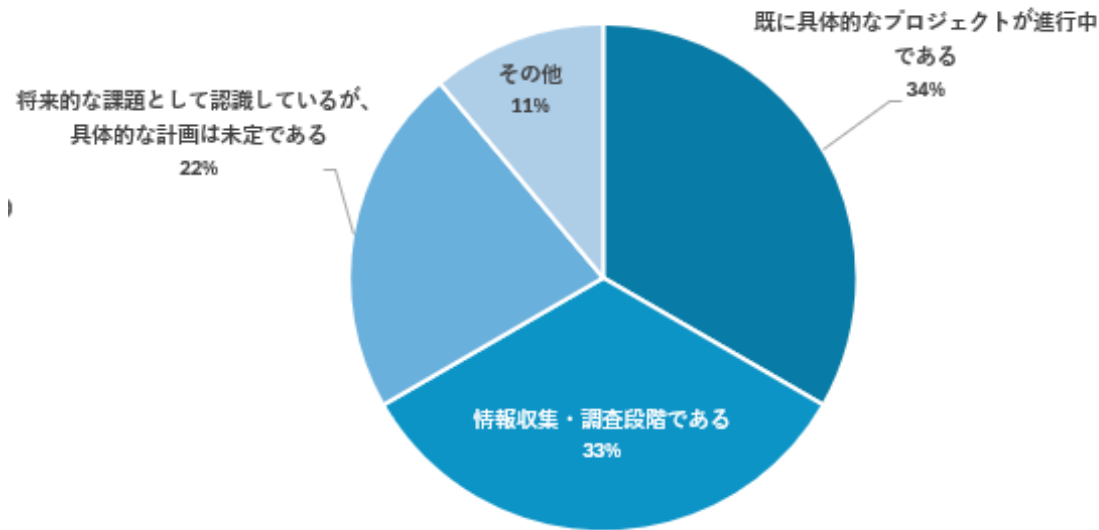
- 人材育成

アンケート回答 (4/8)

『各発表からの成果・今後の期待等』に関する設問1～5

設問4

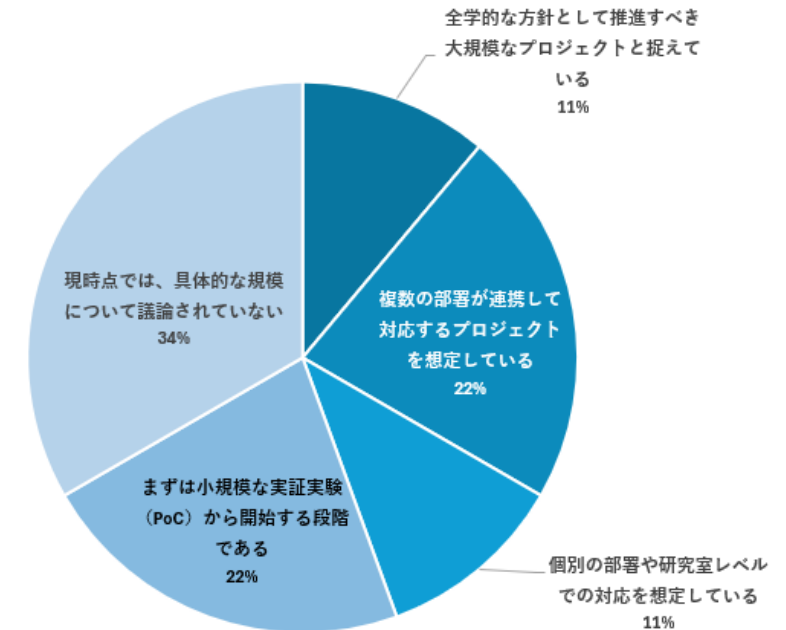
課題解決に向けて、貴学では現在、どのような検討状況か教えてください。



■ その他
事務方が、生成AI(Copilot)を活用しようとする取り組みの途中段階である。

設問5

課題解決は、貴学においてどの程度の規模の取り組みとして想定、あるいは議論されていますか。

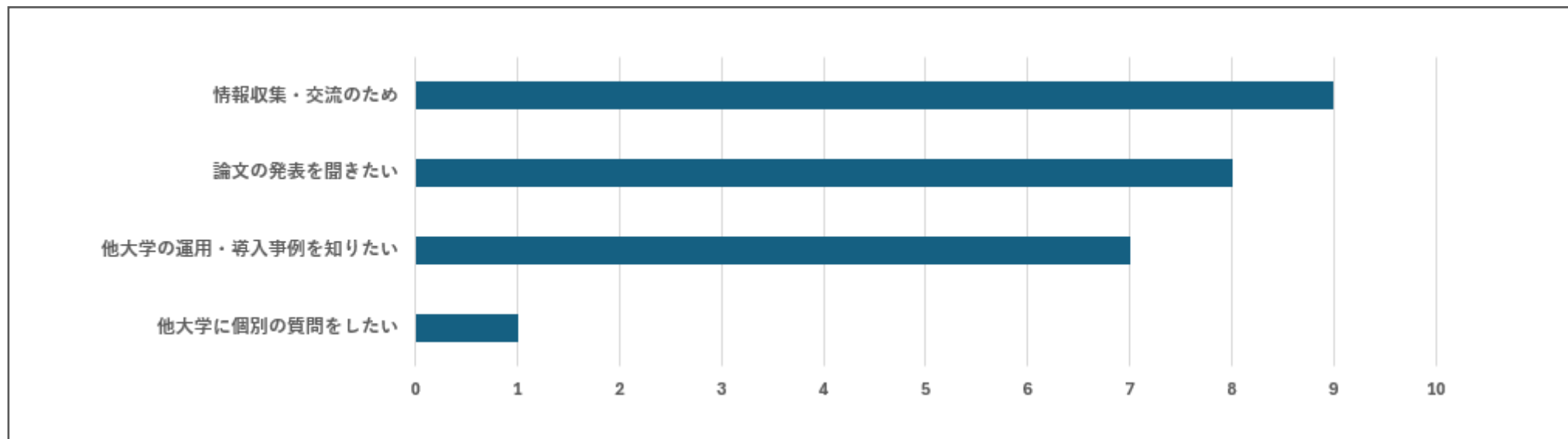


アンケート回答 (5/8)

『総会の参加目的・満足度』に関する設問6~9

設問6

参加の目的

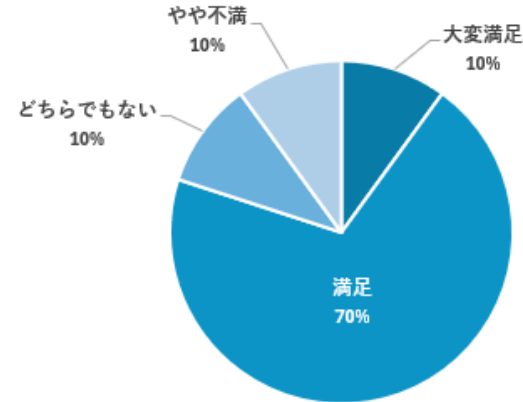


アンケート回答 (6/8)

『総会の参加目的・満足度』に関する設問6~9

設問7

全体としての満足度



満足度 : 80%

設問8

全体満足度評価の理由 (一部抜粋・省略)

- 各地区の活動報告の時間は、あと5分程度長くてもよかったかもしれませんが、内容的には大変勉強になりました。
- 皆様のご努力で全体的に満足しております。現地参加校が少なめの状況で、学校間の直接交流を今後強化できればと考えています。
- 他大学様の状況が分かり参考になった。
- 参加者が少なく2件の発表について質疑応答が盛り上がらなかった

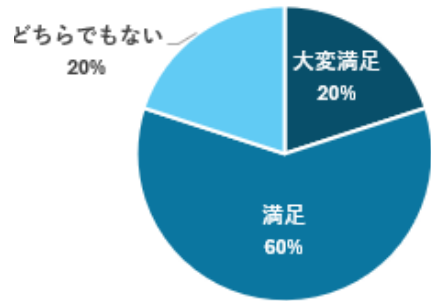
・高評価：各大学の状況把握、情報収集ができた
・低評価：参加者が少ない

アンケート回答 (7/8)

設問9

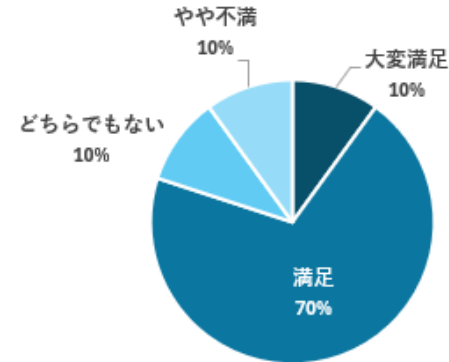
各観点での満足度について

■ ブロック報告について



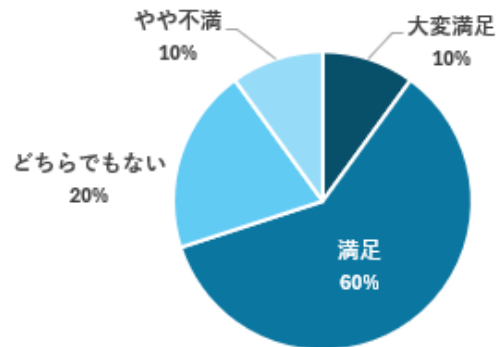
満足以上： 80%
やや不満以下： 0%

■ 論文発表について



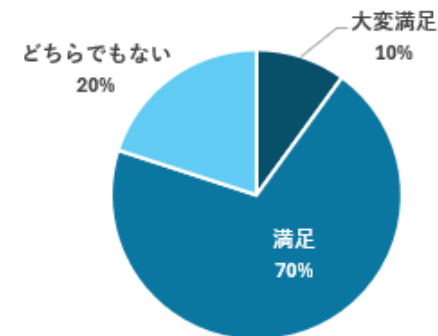
満足以上： 80%
やや不満以下： 10%

■ 時間配分について



満足以上： 70%
やや不満以下： 10%

■ 当日の運営について



満足以上： 80%
やや不満以下： 0%

アンケート回答 (8/8)

『IS研への期待・意見』に関する設問10

設問10

IS研についてのご意見・ご要望

- 論文の投稿数が減っているほか参加者が少なく、活動が停滞している印象がある。具体的な提案があるわけでは無いが、何らかのテコ入れが必要。まずは、国立大学の情報系センターを中心とした全国的な集まりであり内容がIS研と競合する、「大学ICT推進協議会(AXEIS)」「国立大学法人情報系センター協議会(NIPC)」「学術情報処理研究集会」「情報処理センター等担当者技術研究会」「情報処理学会インターネットと運用技術(IOT)研究会」について現況分析(イベントの内容・主要人物など)を行うのがよいと思う。また、総会の開催時期について、入試等の重要イベントを避けるほか、INTEROPやEDIXなどセンター関係者が赴くことが多いイベントの直前直後や期間中に近隣会場で設定するのもよいと思う。
- 他大学の参加者が少なかったような気がします。また、オンラインでの参加だったので、会場の様子が少しわかりづらかったです。
- 各ブロックの活動は盛況に行われているように感じますが、総会は盛り上がり欠けているように感じます。開催方法を含め、IS研のあり方について考える時期に来ているのではないのでしょうか。
- SNSによるコミュニティの形成と情報交流の可能性？ 例えば、LINEなどで
- なかなか難しいかもしれないが、ブロックをこえて、情報交換が円滑に行えると良いと思った。JUST PDFのアカデミックライセンスがなくなって、費用が10倍になったという話があったが、愛知教育大学は、名古屋大学さんから、安価な代替のPDFソフトを教えてもらったので、乗り切れそうである。一方、鹿屋体育大学？(記憶は曖昧)は、本部から予算を増やしてもらってJUST PDFを継続されるという話だったので、そのように思いました。
- 議事については報告だけで終わりましたが、採決を取る必要はないのでしょうか？

・参加者が少なく、盛り上がり欠けた
・IS研のあり方について考えるべき



この資料は、IS研の資料です。

IS研・CS研会員の組織外および富士通グループ外への公開・配布はご遠慮ください。

国公立大学情報システム研究会 事務局

〒 212-0014 神奈川県川崎市幸区大宮町1-5 JR川崎タワー
富士通Japan株式会社 P&E事本 ビジネス戦略室内

ホームページ : <https://csis.ufinity.jp/isken>

E-mail : fj-isken-bureau@dl.jp.fujitsu.com